



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.13 2006.10



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

発行 1 周年記念号

1 周年ご挨拶

SIMOT リサーチセンター センター長 渡辺千仞

季節の移ろいとともにあつという間に1年がたちました。「イノベーションなくして成長なし」を標榜される安倍内閣の発足と軌を一にして本ニューズレターも1周年を迎えました。SIMOT の中間評価を経た後半戦への移行とも符合します。その間の12号にわたるニュースに対しまして、毎月1000人の読者から貴重なご意見をいただいています。まさにこのニューズレターはオープンソーシングの重責を果たしています。1周年を機にこれが世界に広がっていくことを願ってやみません。

目次

● 巻頭言	1	● 学生の目	3
● ニューズレターで振り返るこの1年	2	● 最近の動き	4
● イベント報告	3	● イベント予定	4
● 海外活動報告	3	● 編集後記	4

巻頭言

新しい日本のためにSIMOTは何をできるか？

SIMOT 評価委員長、日本工学アカデミー会長
元 住友電気工業株式会社 副会長 中原 恒雄



SIMOT Research Center NEWSLETTER の発行一周年を迎え、21世紀 COE プログラムも半ばを越す段階となりました。この機会に SIMOT 評価委員長としての率直な所見を述べてみたいと思います。

第一に、センターの皆様方のご努力にも拘わらず、一般の人々には Institutional という言葉の意味をすんなり理解しにくいということがあります。機会のある度に分かりやすい喩え話を交えながら、繰り返し説明していくことが必要だと思います。

第二に SIMOT の適用による具体的な成功例を示すことが望ましいと思います。これから日本で必要なイノベーションへの具体的な適用方法でもよいかと思います。そして現在すでに評価されている教育の実績を一層積み上げていくことです。

第三に21世紀 COE プログラムの終了時点で達成すべき各要素の総合化のマイルストーンを設定し、2年後までに取りまとめることが必要です。更に併行して、グローバル COE など次のマイルストーンの設定を考えていくことが望ましいでしょう。

安倍内閣は、オープン、経済成長、イノベーションにより美しい日本の構築という目標を掲げました。オープンとは、出来るだけ政府の規制を緩和し民営化を推進して、小さな政府によるグローバル経済化を指向する方向だと思います。グローバル化、アジアの台頭、少子高齢化といった環境の変化の中で持続的経済成長に挑戦しようというわけです。そのためには世界的なインスティテューションの変化を早めに予測し、日本で主導できる変化があるのかの検討が必要であります。今まさに国内経済からグローバル経済へ、また情報産業時代から頭脳産業時代への移行期だと思われます。ここで企業が生き残るために、共進すべきイノベーションは何か、技術革新による経済成長を世界に先駆けて実行するために SIMOT は何をできるかということがあります。SIMOT がこれらに貢献して益々発展していかれることを心から祈念いたします。

■ ニュースレターで振り返るこの1年 ■

No.1 (10月号)

イベント

- ・ Inter-COE21 シンポジウム (8/25-26 東工大)
- ・ 第1回 日中産学官連携セミナー (8/23 東工大)
- ・ 第1回 東京MOT6大学連合シンポジウム (9/27 東京国際フォーラム)

海外活動報告

- ・ 国際MOT学会 Awards Banquet (5/22-26 ウィーン)
- ・ 若手研究者 海外研究報告 (9/18-19 ラクセンブルグ)



No.2 (11月号)

イベント

- ・ 「君はビル・ゲイツになれるか」 in 工大祭 2005 (10/22-23 東工大)
- ・ 研究・技術計画学会第20回年次学術大会 (10/22-23 政策技術研究大学院大学)
- ・ 日米の技術政策の相互啓発とその EU 技術政策へのイパ外 (10/31 東工大)
- ・ 成功に導くシステム統合の論点 (10/28 東工大キャパシタビリティセンター国際会議室)

海外活動報告

- ・ The 5th Asian eBusiness Workshop (8/24-27 韓国 済州 (JEJU))
- ・ 経済成長の源泉ワークショップ (10/24-25 オーストリア ウィーン)

No.3 (12月号)

イベント

- ・ サイバネティクスの視点からの SIMOT への示唆 (11/14 東工大)

海外活動報告

- ・ 次代を担う学生の確保・訪日懇話 中国大学訪問 (11/17-23 中国 上海、成都、北京)
- ・ 蒙州工学アカデミー30周年記念総会 (11/20-21 オーストリア ヴィンナ)
- ・ 36th Annual Meeting of the Decision Sciences Institute (11/19-22 米国 サンフランシスコ)

No.5 (2月号)

イベント

- ・ 日本の義務教育と創造性 (1/25 東工大)
- ・ インスティテューショナル技術経営第二 コロキウム (2/10 東工大)



海外活動報告

- ・ 知的財産教育の情報交換 (1/3-8 インド デリ大学 インド工科大学)
- ・ 第1回 IASA・IEF 評議員会 (BOT) (1/30-31 オーストリア ウィーン)

No.4 (1月号)

イベント

- ・ 新時代の質マネジメントシステムモデル (12/12 東工大)

海外活動報告

- ・ 2005 環太平洋国際化学会議 国際化学経営シンポジウム (12/17-20 ハワイ ホノルル)

No.6 (3月号)

第2回年次国際シンポジウム (2/27-28 東工大)

「イノベーションとイノベーションとの共進化がイノベーションの解明」をテーマに、本分野の泰斗による最先端の講演、SIMOT メンバーによる研究の進捗状況の報告基調講演者



ネイサン・ローゼンバーグ教授
(スタンフォード大学名誉教授)



ルイス・M・ブランスコム教授
(ハーバード大学名誉教授)



藤井照穂氏
(マサチューセッツ工科大学名誉教授)



ジェームズ・C・アベグレン氏
(グロービス経営大学院大学名誉教授 兼 教授)



下村満子氏
(総研同友会 副代表理事)



No.7 (4月号)

イベント

- ・ IMD & Tokyo Institute of Technology Meeting (3/29 東工大)
- 「世界競争力マップ」で有名な IMD の他、科学技術振興機構 (JST)、米国ドレクセル大学等からもゲスト講演者が参加。SIMOT の基本テーマ「イノベーションとイノベーションの共進化」に依る世界各国の競争力について議論



海外活動報告

- ・ フィンランド産学との連携
- ・ イノベーション・ビジネス・社会国際シンポジウム (3/16-21 フィンランド タンペレ)
- ・ マドリッド自治大学訪問 (3/21-26 スペイン マドリッド自治大学)

No.8 (5月号)

トピック

- ・ 中原評価委員長 PICMET 賞受賞
- ・ マドリッド自治大学との連携 学術交流協定の締結
- ・ 高雄大学 黄英忠学長 SIMOT 研究センター長訪問 (4/20 東工大)

イベント

- ・ 初等中等科学技術教育の国際的動向とイノベーション (4/20 東工大)

No.9 (6月号)

イベント

- ・ 公開セミナー「知的財産部門と他部門との連携に関する研究」(3/17 東工大)
- ・ アジア自動車産業の実力 (5/15 東工大)

海外活動報告

- ・ 清華大学副学長との会談 (5/23 北京 清華大学)



No.10 (7月号)

イベント

- ・ 日本企業の組織・制度・文化とハイテク・イノベーション (6/22 東工大)
- ・ 東工大統合研究院リサーチ研究機構との討議 (6/28 東工大)

海外活動報告

- ・ INFORMS (6/24-26 中国 香港)

No.11 (8月号)

トピック

- ・ 中原評価委員長 技術経営国際会議 技術経営大賞受賞 (7/11 トルコ イスタンブール)

イベント

- ・ 第6回アジア電子商取引ワークショップ (8/3-5 福岡 シーホークリゾート福岡)
- ・ 第4回 Inter-COE21 シンポジウム (8/11 東工大)
- ・ アジアの人々の見る日本：留学生4桁時代の提言 (7/28 東工大)



No.12 (9月号)

イベント

- ・ 遠隔リアルタイム・コラボレーション実験 (8/3-6 福岡、東工大、韓国 済州大、同 KAIST)
- ・ 日本社会における人材の流動化 (8/30 東工大)



海外活動報告

- ・ SIMOT 若手研究者 海外研修 (6-8 月 オーストリア ウィーン 国際応用システム分析研究所)

■ イベント報告 ■

サービス経済の成熟とインベンションへの要請の変化予測 (2006年9月25日 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会国際問題分科会 6 月例会では、西武文理大学名誉教授増川重彦氏に「サービス経済の成熟とインベンションへの要請の変化予測」とのテーマでご講演いただきました。講演では、理工学的な方法論では解明できない「サービス経営」という人間的な営為に焦点を合わせながら、実践的な経営システムの構成枠組みの体系を豊富な分析事例によりご紹介いただきました。サービス経済化の趨勢において重視されるインベンションの変遷とそれらに係るインスティテューションについてなど、活発な議論が行われました。

SIMOT リサーチセンター運営委員会 (2006年9月27日 東工大 西9号館 コラボレーションルーム)

SIMOT リサーチセンター運営委員会では、事業推進担当者、COE 専任特任教授の他、東工大内関連部局の代表の参画をあおぎ、センターの運営に関する基本的な方策等重要事項について、全学的な審議検討を期しています。第3回となる今回は、今年でプログラム3年目を迎えた「インスティテュショナル技術経営学」の中間評価のレビューの他、ポストCOE を見据えた今後のセンター運営方針について、関連部局の代表からの示唆を仰ぎつつ忌憚のない討論を行いました。



研究・技術計画学会 第100回技術経営(MOT)分科会 (2006年9月27日 北陸科学技術大学院大学)



研究・技術計画学会 MOT 分科会では、主宰例会が第100回を迎えることを機会に、「産業界に役立つ MOT の展開と今後のあり方」についてのパネル討論が行われました。当センター長の渡辺千仍教授がパネリストとして招かれ、「SIMOT の目指すところ」とのタイトルでプレゼンテーションを行いました。多様な MOT および人材育成プログラムの事例として、SIMOT の教育研究活動を挙げると共に、「イノベーションとインスティテューションの共進化」について議論が展開されました。

■ 海外活動報告 ■

サセックス大学 SPRU 40周年記念会議 (2006年9月11-13日 イギリス サセックス大学)

SIMOT リサーチセンター運営委員 宮崎久美子教授は、出身校サセックス大学 SPRU (科学技術政策研究所) の40周年記念会議、"SPRU 40th Anniversary Conference: The Future of Science, Technology, Innovation Policy: Linking Research and Practice"にて発表しました。初代の所長、クリストファー・フリーマンを初め、進化経済学の第一人者であるリチャード・ネルソン教授、セクター・イノベーション・システムで知られるフランコ・マラーバ教授、イノベーションモデルで著名なMITのアッターバック教授、児玉文雄先生などを含む出席者は350名を越え、将来のイノベーションポリシーについて熱心に3日間審議しました。

■ 学生の目 ■

IIASA 若手研究者夏季プログラムに参加して

東京工業大学大学院社会理工学研究科
経営工学専攻博士課程3年 雷 善玉



今年6~8月の3ヶ月間、国際応用システム分析研究所 (IIASA) 主宰の若手研究者暑期プログラム (Young Scientists Summer Program) に参加しました。世界15ヶ国以上49名の若手研究者と共同で研究しました。

技術経済・経営に興味を持つ私はダイナミクスプログラムに所属し、毎日ロシアなど著名な研究者、専門家と議論しながら、最適理論における技術拮抗力をコーディネータとした市場学習の役割というテーマの研究を進めました。この研究により、企業内部

の最適研究開発投資と対応する外部の市場学習の企業の競争力向上への重要性を解明し、ハイテク企業の新たな技術経営への提案に結び付けようと考えています。

今回の参加により、自分の研究手法、専門知識を大きく前進させた他、研究者の研究精神を深く感じました。毎回著名な研究者の講演、セミナーの後、今まで経験がないほどの熱い議論がありました。皆は理論の“真”と研究の厳密性を求めるため、真剣に様々な意見、コメントを交換しました。また今回若手研究者の一部研究は各国の政策と密接な関係があり、実用性の魅力も感じました。また、ワインの文化、歴史名所、自然環境など IIASA の用意した社会イベントを通じ、オーストリアの文化を含めた様々なインスティテューションを勉強しました。



■ 最近の動き ■

海外出張

宮川 9月26日~29日 シンガポール アジア品質ネットワーク国際シンポジウム
渡辺 11月16日~20日 豪州 シドニー 豪州工学アカデミー年次総会出席

■ イベント予定 ■

東京工業大学 オープンキャンパス

日時 10月28日(土)、29日(日)
場所 東京工業大学 大岡山キャンパス

第10回公開シンポジウム「東アジアのインスティテューショナル・イノベーション」(東アジア工学アカデミー円卓会議併催)

日時 10月26日(木)-27日(金)
場所 学士会館(東京 一ツ橋)
内容 セッション1「インスティテューショナル・イノベーション：現在および今後の展望」
セッション2「技術革新のダイナミズム：事例」
セッション3「イノベーションと国家戦略・社会経済体質・企業の組織文化や時代の背景：ビジネス・インテリジェンス(企業的意思決定に有用な知識や洞察を産み出す組織的・系統的な仕組み)および文化と知識」
(中原恒雄 SIMOT 評価委員長、渡辺千仞同リサーチセンター長、保々雅世センター員が参加)

関連HP <http://www.eaj.or.jp/>

International Workshop on Institutional View of Supply Chain Management

日時 11月16日(木) - 18日(日)
場所 東京工業大学 西8号館10階大会議室、百年記念館
内容 SCMをインスティテューショナル技術経営学の立場から討論する国際的ワークショップ
(SIMOTリサーチセンターから、圓川隆夫副センター長、曹徳弼両運営委員が参加)

関連HP <http://www.ie.me.titech.ac.jp/ISCM2006/index.html>

研究・技術計画学会 国際問題分科会 11月例会

日時 11月27日(月) 18:00~20:00
場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室
テーマ グローバリゼーションの経営戦略の課題：MITチームによるイノベーションの弁証法的展開
- インスティテューショナル技術経営学への示唆
講師 依田 直也氏(立正大学経営学部教授 株式会社東レ経営研究所元代表取締役社長)

■ 編集後記 ■

皆様のご支援、ご協力のお陰様をもちまして、COE-SIMOTは2004年10月の発足より2年間、また当リサーチセンターも1年半の間、有意義な研究・教育活動を多方面で展開することが出来ました。改めまして御礼申し上げます。今後も更に当センターを加速度的に進化させ、その活動を逐次、皆様に本ニュースレターを通じて発信させていただきたく存じます。今後とも倍旧のご厚情を賜れば幸いです。ありがとうございました。

● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム
「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務室

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51
東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内 西9号館208B号室
TEL:03-5734-2936 FAX:03-5734-2250
Email:nakane@me.titech.ac.jp URL:<http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>
編集者: 菊池 隆